

夏の名句

家清水

のみがのこりし

庄屋かな

夏井いつき

● 本学の所蔵資料

夏井いつき編

『絶滅寸前季語辞典』

[東京堂出版 2001]

請求番号：911.307|Nat||[1]

本館地下書庫

● 俳句の説明

今や過去の遺物となった庄屋の住んでいた家。しかし、家清水(家の庭などに湧く清水)だけは今なおこんこんと湧き続けている。

夏の
図書館を
詠む

OFFICE NEWS

頓珍漢素人俳壇

本学園の
学生・教職員の方々から
投稿いただきました。

星空に 「どん」と弾ける 二重丸

欽 作

新緑の 美術館には クレーの絵

Urara

夏まつり 熱き心で 書を読み

多 聞

涼をよぶ 浴衣姿の 読書会

遊 亀

朔太郎に 夏を訪ねて あじさい花

日向雅

日盛りを 冷ましてそっと 本開く

杏 子

学舎に 書籍埋もるる 蟬の声

樂 葉

夕立に 晴耕雨読の 我が身かな

朝 顔

本読めば 勝手にめくる 扇風機

多 誤 作

課題図書 図書館の夏を 行き来して

ノンブル

